

AO 法骨折治療 Foot and Ankle 英語版 Web 付録付

Stefan Rammelt, Michael Swords,
Mandeep S Dhillon, Andrew K Sands・原著

田中 正・監訳

佐藤 徹・訳者代表

野田知之, 松村福広, 峰原宏昌,

宮本俊之, 松井健太郎・訳

評者 田中康仁(奈良県立医科大学教授・整形外科)

「こんな本が欲しかった」と考えるのは私だけではないと思います。AO Trauma によるエビデンスに基づいた治療体系は、骨折治療のスタンダードであることに異論のある方はあまりいないのではないのでしょうか。足・足関節は外傷の好発部位であり、今回この部位に特化した教科書の日本語訳が出版されました。外傷を治療する整形外科医にとり、必携の書であると考えます。

本書の最大の特徴は、各項が症例提示を基本として編集されていることです。各章は脛骨遠位部から始まり、果部、踵骨、距骨、中足部、中足骨、最後は足趾と種子骨まであり、各章でははじめにそれぞれの部位の骨折が概説され、その後、59 例ものありとあらゆる骨折の実例が網羅されています。それぞれの症例では術前計画、手術室のセットアップ、手術法、ピットフォールと合併症、代替テクニック、術後管理とリハビリテーションについて、具体的に詳細に記載されています。

私が感銘を受けたのは、術前計画の項に手書きの作図が載っており、プレートの選択方法まで、詳細に記載されていることです。例えば複数のプレート固定を併用する場合は、ストレス集中による新たな骨折の発生を避けるために、それぞれの

A4 判・664 頁
2023 年 5 月
定価：28,600 円
(本体 26,000 円＋税)
ISBN978-4-260-05062-3
医学書院 刊



プレートの近位端が骨幹部の異なるレベルになるよう考慮する必要があることなど、エビデンスに裏打ちされたノウハウがそれぞれの症例について、惜しげもなくつまびらかにされています。

手術法に関してはステップバイステップで注意点を交えながらわかりやすく提示されており、術中写真も豊富に使用されているために同様の症例がきたときのイメージトレーニングが非常にやりやすかったです。代替テクニックも明示されており、読者は自身が治療しなければならない症例に当てはめて治療法を選択することができるのも嬉しいと思います。また、合併症の項も充実しており、骨折に併存している皮膚や軟部組織、靱帯損傷などに対する対処法についても、具体的に述べられており、初心者でもわかりやすく、経験豊富な外傷医の治療方法を学ぶことができます。後療法に関しては抜糸や荷重の時期、果ては社会復帰までのタイムテーブルが示されています。さらに、抜釘に関しても触れられており、診療に直結する知識が満載されています。

本の最後には骨折の各種分類方法まで載せられており、本書一冊あれば足・足関節に関する外傷の全てを学ぶことができると考えます。